

まちの話題

PHOTO NEWS



ステージでは、新しく決まった市の花・木・鳥をPR中

レンゲとともに春を満喫

吉備路れんげまつり

4月29日、吉備路れんげまつりが備中国分寺周辺で開かれました。開放されたレンゲ畑、催し物ステージ、出店、公開された備中国分寺五重塔の初層、お茶席など、まつりは盛りだくさんの内容。なかでも開放されたレンゲ畑は人気で、親子連れがレンゲの花を摘んだり、五重塔とレンゲをバックに写真を撮ったりしていました。また、ステージでは新しく決まった市の花「れんげ」・木「もみじ」・鳥「タンチョウ」を、歌と踊りでPRする出し物もあり、訪れた人は楽しい春の一日を過ごしていました。



自転車による発電のコーナー。「この電球に明かりを灯すのに、こんなにこがないとだめなの」とがんばる子どもたち

環境の大切さを考える

グリーンデイ2006

4月22日、そうじゃ水辺の楽校で環境を考えるイベント「グリーンデイ2006」が開かれました。会場には環境を守ることに取り組む約60の団体が集結。遊ぶ・食べる・学ぶのキーワードで日ごろの活動をPRしていました。訪れた人たちは、廃材でサンパ用の楽器を作ったり、電気自動車を試乗したりするなど、楽しみながら環境を大切にする重要性を実感していたようです。前日の夜には、1000を超えるキャンドルが幻想的な雰囲気をかもし出すなか、民話の朗読や演奏会も行われました。

100歳おめでとうございます

藤岡初太郎さん満百歳

4月23日、明治39年生まれの藤岡初太郎さん(日羽)が満百歳を迎え、市や県から記念品が贈られました。初太郎さんは、両親の事業を手伝うため17歳で渡米。昭和元年に帰国してからは、主に農業を営んできました。また、ボランティア活動を進んで行ったり警察協助員を務めたりするなど、地域に貢献。長寿の秘訣は、くよくよせずにおおらかに暮らすことだそうです。「百歳まではあつという間。いろいろなことがあって、生きていてよかった」と感想を語ってくれました。



大勢のひ孫たちに囲まれ、百歳の誕生日を祝ってもらう藤岡初太郎さん



全国生涯学習フェスティバルのマスコットキャラクター「マナビィ」を持ちほほえむ野口さん

「晴れの国キラリ☆輝くまなびの輪」  
生涯学習は、だれもが参加できるもの

輝いている人

平成19年11月に岡山県下16市町で開かれる全国生涯学習フェスティバルの大会キャッチフレーズに、応募した作品が最優秀賞に輝いた野口敦史さん(総社東中学校2年)だ。

「晴れの国 キラリ☆輝くまなびの輪」。野口さんの作品は、県内を中心に全国から応募のあった1712点のなかから選ばれた。

受賞の知らせがあったのは2月中旬。県庁からの電話を受けた母から聞いて、びっくりしたという。学校でもホームルームで紹介され、クラスメイトが拍手で祝ってくれた。「照れくさかったけど、うれしかった」と、淡々と教えてくれた。

応募のきっかけは、学校の授業でキャッチフレーズを考える課題が出たこと。考えはじめてひらめいたのが、おかやま国体で使われたフレーズだった。そして、募集要項にあった例文を見ているうちに、すーとこのフレーズが出てきたという。「リズムがよいから、五・七・五の語感にも気を配っている」と野口さんは言う。

全国生涯学習フェスティバルは、学びの輪を広げていく全国規模の参加体験型のイベント。これから約1年半、さまざまな広報活動でこのキャッチフレーズが使われることについて、「うれしい」とはにかむ。生涯学習という言葉に「だれでも参加できるもの」とはつきりと答えてくれた。

普段は、学校の部活と地元クラブとで、ほぼ毎日ボールを蹴っているサッカー少年。この受賞の副賞でもらった図書カードでサッカーの本を買ったという、サッカー好きだ。語り口は穏やかで控えめ。だれでもが親しみやすいキャッチフレーズを生み出した感性は、こんなところにあるのかもしれない。

全国生涯学習フェスティバル(まなびア岡山2007)の大会キャッチフレーズに、応募した作品が最優秀賞に輝いた野口敦史さん(福井)

このコーナーでは、輝いている人を募集しています。あなたの周りにキラッと輝いている人がいたら、ぜひとも広報そうじゃ編集室(企画課)までご一報ください。自薦・他薦は問いません。